

彙報

△二〇一六年度 立教大学日本文学会委員

は、左記の通りになりました。(順不同)

教員委員

石川巧 沖森卓也 加藤陸 金子明雄

(事務局長・編集(日本文学))

小嶋菜温子(編集(日文ニュース))

鈴木彰 水谷隆之(会長・会計)

卒業生委員

阿久津智 川村裕子 小森潔 瀧田浩

出口久徳(監査) 宮川健郎 安原真琴

院生委員

事務担当・根来由紀(チーフ)

西塔優里 高橋早紀 古居歩 白雪

焦哲敏 藤原真以子

編集担当・仲井真建一(チーフ)

加藤健一郎(副チーフ) 齋藤摩祐

田中美和子 大貫真実 相馬真理子

加藤明日菜 永盛晴奈 李愛理

若松郁 楊坦 益田彩希 泉溪春

飯塚菜月 鄒瓊 シャオ恵文

中村優実

△立教大学文学部日本文学科/専修設立60

周年記念国際シンポジウム

「戦後の東アジアにおける日本語文学

移動・交流・支配」

日時 二〇一六年六月二日(日)

午後一時～

会場 立教大学太刀川記念館3F多目的

ホール

【基調講演】

酒井直樹「主体的技術としての翻訳

——人文学の宿命について」

【シンポジウム】

(1) 鄭炳浩「戦後、植民地日本語文学を

めぐる日・韓文学史の記憶」

(2) 王成「トラベル・ライティングと中

国表象——阿部知二の旅行記をめぐって」

(3) 笹沼俊暁「現代日本作家と中国・中

国語」

(4) 新城郁夫「アメリカの想起と隠蔽

——沖縄文学における「ペリー来

航」表象をめぐって」

【集中討議】

デイスカッサント 坪井秀人

コメンテーター 金子明雄 林淑美

司会 石川巧

△二〇一六年度 立教大学日本文学会大会

日時 二〇一六年七月二日(土)

午後一時三〇分～

会場 立教大学池袋キャンパス

五号館(五三二教室)

【研究発表】

(1) 安尾太一 安部公房「R62号の発

明」論

(2) 影山亮 大正中期における菊地寛の

受容—戯曲(化)という経路—

(3) 曹佳榮 接頭性字音語基「全」と

「総」の関係について

(4) 阿久津智 「音韻」という語の意味

【講演】 16・30～

加藤定彦氏(本学名誉教授)「伝統と

変革——立教大学で送った35年——」